

2018 年度地域インターンシップ 活動報告書



目次

はじめに	p.3
メンバー紹介	p.4
書籍班活動報告	p.5～7
書籍作成プロジェクトについて	p.5
【第一期】2017年度	p.6
【第二期】2018年4月～7月末（本訪問まで）	p.6
【第三期】本訪問 8月7日～13日	p.6
【第四期】8月14日～（本訪問後、現在）	p.7
店舗班活動報告	p.8～17
【第一期】4月～6月16日（第一回事前訪問前まで）	p.8
【第二期】6月17日～7月27日（第二回事前訪問前まで）	p.9～10
【第三期】7月28日～8月6日（本番渡航前まで）	p.11
【本訪問】8月7日～13日	p.12～17
本訪問1日目・2日目「渡航と活動開始」	p.12～15
本訪問3日目・4日目・5日目「最終調整と営業本番」	p.13～15
本訪問6日目・最終日「挨拶回りと今後に向けた反省」	p.16～17
おわりに	p.18
付録：空き店舗班の活動に関する記事	p.19～21

はじめに

この天売島の空き店舗活用プロジェクトは北海学園大学経済学部の学生が中心となって、「地域インターンシップ」という講義を母体として始まったプロジェクトです。この地域インターンシップは2016年に私たちの先輩方が天売島を訪れた際に始まりました。その際に天売島に何が必要とされているのかと疑問が生まれました。これをきっかけとして、島での暮らしや仕事にまつわる歴史を次世代に伝えていくための書籍をつくることと、当時島に放置されていた空き店舗を再活用することの2つが考え出され、現在はそれぞれ班に分かれて目的を実現するために活動しています。

空き店舗班は前述の状況に加え、島内に人々が語り合える場がほとんど無いことなどを実感し、こういった島の課題を解決できないかという想いからこのプロジェクトが生まれました。この理念は先輩から後輩へと受け継がれ、多くの方々のお力添えもあって今回の試験的实施につなげることができました。

今年度は2回の事前渡航を経て天売島に8月7日から13日の一週間滞在し、そのうち10日と11日の二日間で空き店舗を用いて飲食店を営業いたしました。それまでの事前準備においては前日まで調整が難航し不安要素が山積みとなっていました。当日は多くの方々にご来店いただき、一時的ではありますが閑散としていた空き店舗は賑わいを取り戻すことができました。またただ営業をするだけでなく、店舗にいらしてくださった方々との会話を通し、今後の空き店舗活用における多くのヒントを得ることもできたと考えております。

私たちが天売島という海に囲まれた島で、このようなプロジェクトを行う意義は以下の点にあると考えています。第一に学生と島民や観光客の方々が出会いやすくなり、学生と地域住民の間で濃密かつ堅い信頼関係を築く機会ができること。第二に天売島では人々の生活と産業の結びつきが強いため、地域の実態が見えやすい環境で地域問題の解決に取り組むことなどが挙げられます。

今回この報告書では、今年度のメンバーが揃った4月から、書籍班の活動と空き店舗の営業を行った8月の渡航期間までの私たちの活動の様子について報告させていただきます。最後になりますが、このプロジェクトは、大学の先生方や天売島の島民の方々、多くの方々のご協力をいただけたお陰で実施することができております。皆様のご協力に対して、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

2018年度 北海学園地域インターンシップ
店舗班代表 経済学部地域経済学科 3年生
今野友輝
書籍班代表 経済学部経済学科 3年生
牧野睦

メンバー紹介

空き店舗班



今野 友輝(3年)



川岸 賢輔(3年)



渡部 凌(2年)



安田真奈(2年)

書籍班



牧野 睦(3年)



福田 愛子(2年)



市川雄二郎(2年)

書籍班活動報告

【書籍作成プロジェクトについて】

北海道羽幌町の日本海に浮かぶ天売島。海産物や天売猫、オロロン鳥の繁殖地としても有名な場所である。夏の観光シーズンにはそれらを目的とした人々が多く集まる。

天売島について取り上げた web サイトは現在の情報が得やすい。天売島 Officials site¹では「ちいさな地球。」をキャッチコピーに、観光場所や泊まる場所が現代的なデザインのもと紹介されている。その一方で関連本の種類は少なく、天売島の自然観察ハンドブックや海鳥を取り上げたものがメインで、本で天売島の過去や歴史を知るには、本の厚さが 7 cm 程の羽幌町史を読むしかなかった。

私たちは天売島と関りを持つ中で天売に関する本、つまり後世に残る資料が少ないことにさみしさを感じていた。その想いを原点に、天売島の歴史や魅力を詰め込んだ書籍の作成を目指したのが、このプロジェクトなのである。

漁業関係者の方に 1 人で聞き取りをしている様子です。去年に引き続き、二度目の聞き取りだったため、より深いお話を聞くことができました。



天売小学校の教頭先生に書籍班のメンバー全員で聞き取りを行いました。宵宮祭りにおけるこども神輿の話や、天売島における教育についてのお話を伺いました。

書籍作成の写真資料を集めるため、島の色々な場所を巡りました。



¹ <https://www.teuri.jp/>

【第一期】2017年度

3年生 牧野睦

2017年6月12日の打ち合わせの中でOBである木村拓貴の企画である書籍作成の提案が、後におらが島活性化会議の坂本学さんの了承のもとで進めることとなった。8月19日の打ち合わせ段階で、調査は天売島の漁業をテーマに、過去の歴史や現在の状況、未来に向けた想いについて座談会形式伺うこととし、その中で、資料提供をしていただけないか交渉、後日可能であれば自宅等に訪問することとした。

天売島に渡航した8月20日(土)～8月25日(金)の本訪問では、座談会だけではなく、1対1形式での聞き取りも含めた4件の調査を行った。

本期間は文字起こしと既存資料の読み取りを行った。9月21日の打ち合わせでは現段階の報告や反省点、並びに今後の展望についても話し合う。具体的にはさらなる調査の必要と発信形態の選定についてであった。また、ここで調査期間を二年間とすることも決定する。

【第二期】2018年4月～7月末（本訪問まで）

3年生 牧野睦

3月末から天売島地域インターンシップの新メンバー獲得に向けて説明会を行い、4月17日に面接を開始した。そこで、新規メンバー応募12名から面接の結果6名がメンバーとして参加した。4月26日に既存メンバー2名と新規メンバーの顔合わせ&プロジェクト配属先決定し、書籍班は牧野睦、市川雄二郎、福田愛子となり店舗班は今野友輝、安田真奈、渡部凌、川岸賢輔となった。

2018年度の書籍班の課題として、昨年度調査した漁業以外のテーマの追加や発信方法と活用方法の決定が挙げられていた。

5月16日に行った打ち合わせ段階で、活用方法を天売島の集客が多い場所への設置が決定し、学校図書館への設置を書籍配布イベントの開催を目指すこととなった。また、表現形態をB5の冊子にすることも決定する。

6月17～18日に実施した第一回事前訪問では、新規メンバーである二名が天売島に初訪問した。また、実際に天売島に伺った上で、書籍テーマを島内神社の「宵宮祭」と「海鳥」にすることとなる。その後、調査協力頂きたい方へのアポイント取り、聞き取り調査の日程決め、企画書・質問書の作成を行う。

説明会の様子。4回実施し、10名以上の応募がありました。
(厳しく審査されました)



【第三期】本訪問 8月7日～13日

2年生 市川雄二郎

本訪問中は聞き取り調査を進めながら、その他の時間を店舗班の活動に使った。調査したのは、「漁業」3件、「祭」2件、「海鳥」1件、またメンバーの関心があった教育関係1件の計7件である。本来、情報共有という意味でもメンバー全員での聞き取りを予定していたが、店舗班や地域インターンシップ全体の進捗状況から7件中6件がメンバー単独での調査となった。

【第四期】8月14日～（本訪問後、現在）

2年生 福田愛子

本訪問が終わってからは、聞き取り内容のテープ起こし作業を行った。現地での取材内容を文字に起こし、そこから更に冊子に掲載する記事としてまとめ上げる作業だ。実際に作業を進めていくと、本訪問で得られた内容でもまだ充分ではないと分かったため、追加取材の必要がある。

今後の予定は以下のように進める。

昨年度：基礎資料固め
渡航前：書籍について具体的なビジョンを決める
渡航中：天売島にて地域共同フィールドワークの実施
2018/9～2018/11：文字起こし、追加取材を行う
2018/12：冊子原稿の作成、原稿を上げる
2019/1：冊子の完成
2019/2～/3：図書館や公共施設等に設置依頼、自分たち主催のイベントにて書籍配布

私たちの作業はここからが本番であり、聞き取りにご協力いただいた皆さんはもちろん、地域インターンシップを支援してくださっている多くの皆さんのためにもより充実した内容の冊子を作らなければいけない。身の引き締まる思いで真摯に作業を進めていく。

店舗班活動報告書

【第一期】4月～6月16日（第一回事前訪問前まで）

3年生 川岸賢輔

4月27日では先生方や天売島の方々と天売島地域インターンシップに向けた打ち合わせを行い、以下の課題・問題について話し合った。第1に金銭面における動きである。この段階では収支の見通しが曖昧であるため、お金の動きについて明確にすることや助成金申請の手続きなどについて話した。また助成金申請も結果通知が6月頃になるため、その間にクラウドファンディングに取り組み、そこで得た資金を管理するための口座を開設する必要があることなどについて話した。第2に空き店舗活用の内容の精査である。現状の企画書では事業の魅力やストーリー性の面で多くの人に共感してもらえるようなポイントが少ないとの指摘を受けたことでより内容を掘り下げる必要性を実感した。このために実際にコミュニティカフェなどを訪れて、空き店舗活用の理想図をイメージすることやそのために6月の渡航までにできること、やることをリストアップして随時実施することを決めた。そしてその内容に応じて空き店舗活用班の中での役割分担を決めることとした。

4月28日は前述の打ち合わせ内容にしたがって空き店舗班の役割分担決定し、今野は全体のまとめと総括、渡部は会計、安田は物品購入・設置、川岸は広報・クラウドファンディング対応という分担となった。

その翌月の5月10日には空き店舗班の学生のみで打ち合わせを実施し、各メンバーの今後の動きを整理した。物品購入部門を担う安田については、先に必要な物品のリストアップと優先度、費用の算出などを行うこととなった。会計部門は事務作業・支出計算は渡部が、加えて収入関係は今野も担当することとなり、収支管理のほか物品や財源の変更・修正に応じて随時お金の動きを確認することとした。北海道の活動を中心に扱っているACTNOWを利用し、クラウドファンディングを開始した。準備については、期日までに一通りの文章を作成・提出を行い、そのためのPRのための写真等の収集やストーリーやメッセージ性の考案を担うことになった。全体としては返礼品の提供を考え(観光案内・報告書・海産物加工品の提供)なるべく低予算にして営業許可書を取ることを目標とした。

5月16日に打ち合わせをした際には、空き店舗活用の目的・コンセプトの明確化、目標設定、進捗状況確認、飲食店営業許可・酒類販売許可などの準備と作業分担、事業用口座の状況と利用の枠組みと今後のスケジュール確認を行った。

5月21日は書籍班も交えて学生のみで打ち合わせを行い、クラウドファンディングについてのすり合わせを行い、5月31日には渡航時に向けて持って行く物の物品リストの確認と渡航時の行動確認をした。

そして6月7日に行われた打ち合わせでは、クラウドファンディングでの修正と広報活動等の相談や空き店舗の今後の活用計画を行った。6月15日には学生と教員で決起会を行いクラウドファンディング用の写真撮影をした。

【第二期】6月17日~7月27日（第二回事前訪問前まで）

2年生 安田真奈

6月~7月のスケジュールでは、今年度初の渡航となる第一回事前訪問を6月17~18日に実施した。事前訪問では今年度から参加するメンバーにとって初の訪問ということもあり、とても意義のある事前訪問になった。

17日には島内にある神社の宵宮祭で、小中学校のPTAが主催の露店のお手伝いを行い、18日ではお神輿担ぎに参加した。今年度初の渡航ということで、どんなメンバーでどんなことを島で行うのかといった活動内容を島民の方々に知っていただくことが目的となり、お手伝いやお神輿担ぎを通じて島民の方々と交流をとることがメインとなった。そのほかにも、空き店舗の準備として賃貸契約を結び、店舗の現状の把握などを行った。また島民の方々との交流については、特にお神輿担ぎの途中にある休憩のタイミングで話をする機会に恵まれたおかげで、島民の方々とたくさん話をするのが出来たと感じている。このように肯定的な成果が得られたが、一方で私たち学生の考えの甘さが浮き彫りになった。島で空き店舗の現状を見た際には、店舗の老朽化など写真などの情報ではわからなかった現実を知り、メンバー全員が今の準備では本訪問に間に合わないと感じた。

一回目の事前訪問を終え、店舗の現状などから今のスケジュールでは間に合わないことから新しくスケジュールを組み直し、再スタートをきった。この過程の中で、店舗の清掃、営業する際のメニューの考案、店舗の間取りなどと様々な課題が浮き上がった。またこれらと同時にクラウドファンディングで開店資金を集めるための企画を進める作業も行うため、8月の本番まで急ピッチで作業を進めることとなった。

クラウドファンディングについては3年の川岸が担当となり、一回目の訪問の様子なども盛り込んだ文章作成などを行った。7月に入ると実際にクラウドファンディングを開始し、ご協力をお願いした。インターネット上での宣伝に限らず、北海学園大学の教員を中心に1人1人お願いをしていった。また書籍班のメンバーも協力してくれた。

物品仕入れについては店舗の間取りを確定させた後から必要物資のリスト作成や、店舗内の物の分別リスト作成、食品の仕入れ先を探す作業などを行った。この中で特に物資の判別作業などの店舗についての作業が多くあることが判明し、2回目の事前訪問（7月28~29日）が必要となった。また店舗の現状として床の腐敗やシャッターの取り外しなど我々が出来ない作業については、島の方々が作業を行ってくださった。こういったお力添えもあり、店舗にドアや水道が整備され、8月の営業へ着実に準備が進んでいった。

こうして様々な課題に取り組んでいったが、その中で最も苦戦したのがメニューを確定させることであった。空き店舗で飲食事業を行うためには保健所へ申請し営業の許可が必要となるが、提供できる品目に制限があること、そして我々が提供できる範囲からメニューを考えるということでもとても難しい内容であったと思う。制限と提供できる範囲の他にも、島民や観光客の方に来ていただくための交流会のコンセプトを実現させるためにはどんな方にでも需要があるメニューにしなければならず、そのためメニューの確定には多くの時間とアイデアが必要となった。

羽幌フェリーターミナルにて。初めて船に乗る人も多く、緊張している様子でした。



神輿担ぎの様子です。島全体で実施しており、私たち学生と引率教員も一緒に担がせていただきました。



第1回訪問時の空き店舗の内部。荒れ果てた状態で、私たちはこれを見て絶対にプロジェクトを実現すると決心しました。



【第三期】7月28日~8月6日（本番渡航前まで）

2年生 渡部凌

事前調査のための訪問から1ヶ月強経過した7月28日、店舗班4人と引率教員の水野谷の計5人で、再度天売島へ向かった。今回の訪問の目的は、空き店舗の片付けや清掃、島民の方々、観光客の方々へのイベントの告知である。

28日、3時ごろに天売島に到着し早速清掃作業を行った。私たちが使用する店舗は、以前は土産物屋として営業していたが閉店から時間が経っていたため風化した雑貨や錆びた什器などが多く残っており、清掃作業は想定よりも難航してこの日に作業を終えることはできなかった。一方で夕方からはバーベキューを行い観光客の方々と交流させて頂き、同時に、私たちの活動についての説明もさせて頂いた。

翌日29日は、主に前日に終えられなかった店舗の清掃作業と、島民の方々、観光客の方々へのイベントの告知を行った。この二日間の訪問は北海道新聞にも取り上げられ、私たちの取り組みを今まで以上に広く知ってもらうことができた。

天売島から帰ってきた後は、今回の訪問の出来事を踏まえ、次回の本訪問のための最終準備・調整を急ピッチで行った。内容としては、提供する飲食物の種類と仕入先、価格設定、提供方法、また、必要な物品の再確認と不足分の追加購入、CFの宣伝広報、保健所での営業許可の取得などを行った。この最終準備、調整の期間は、今回の渡航で浮き彫りとなった課題が多くあるにもかかわらず、上記の訪問から本訪問までの約一週間という短い期間であり、また、大学の定期試験とも完全に重なるというかなり追い込まれた状況であり、メンバーの心労はかなりのものだった。そんな中、保健所に申請していた営業許可証が無事に届き、また、クラウドファンディングも目標額を上回る47万6,000円もの出資金を得るなど、開業に向けての環境が整い始めたことで、本訪問に向けての最終準備、調整のモチベーションも高まり、それぞれ頑張ることができた。

第二回訪問時のバーベキューで、観光客の方々から貴重なご意見をいただきました。事前にもう一度来たおかげで、良い成果が得られました



二回目の訪問時に、空き店舗内の物品を全て外に出し、使えるものとそうでないものとに分けました。



【本訪問】 8月7日～13日

6月、7月の2度の渡航を経た三度目の渡航は、10日、11日に行うイベント開催を主な目的とし、それに伴う準備、後片付け等の為の期間を設けた8月7日～13日の計7日間の訪問となった。

本訪問 1日目・2日目「渡航と活動開始」

2年生 渡部凌

本訪問初日となる日は、体調不良で1人が欠席したこともあり店舗班3名、書籍班3名、教員2名の計8名での渡航となった。9時半に北海学園大学を出発し、羽幌港でフェリーに乗り換え15時半ごろに天売島へ到着した。この日は主に、前回訪問でやり残した什器、雑貨類の廃棄や壁床の清掃などの作業の完遂を目標に活動した。作業は前回訪問の際、殆ど終えていた為、早々に終わることができた。

本訪問二日目、この日はイベントの告知のためのチラシの発行を行い、島民の方の仕事の手伝いなどを行った。また、店舗の内装や看板の作成を行う予定であったが、肝心の店舗の名称が決まっておらず、看板の作成はできなかった。有力な名称候補は挙がっていたものの、商標登録等の関係により、その名称は難しいという判断に至り、課題として9月以降の活動に持ち越すことになった。

また、提供するメニューの追加で、ウニ、エビ、タコが入った「海鮮うどん」という案が飛び出し盛り上がったが、こちらも保健所の関係で難しいという判断に至った。しかし、もしかしたら2日目の11日の営業には間に合うのではないかと、という微かな希望を抱き、翌日の朝一番で保健所に連絡することになった。



フェリーから下りてきた方に
チラシを配っています。
ここに限らず多くの方々から
『頑張って』と声をいただきました。

店舗清掃の合間を縫って、
営業内容の打ち合わせ。
本番ギリギリまで最高の
ものを作りたいと粘って
いました。



本訪問 3 日目・4 日目・5 日目「最終調整と営業本番」

3 年生 川岸賢輔

三日目のこの日は、広報活動や店舗の内装補修工事、備品の確認、整理、そして保健所への連絡を主に行った。

内装補修工事の内容としては、店舗内の床が腐敗していたため、コンパネを床に打ち付け補修し、その上に藁草を敷いて小上がりとして利用できるようにした。

備品の確認では、持ち帰り用のパックなど確認不足による必要な物品の不足が生じてしまった。備品の整理は、確認した備品の配置を確定して共有し、イベント当日、スムーズに動けるように工夫した。この対応を含め、私たちの天売島受け入れ先である「一般社団法人おらが島活性化会議」の方々の支援がなければ島民の方々のニーズに応えることができず、果てには大赤字経営を余儀無くされるところであった。

そして、保健所への「海鮮うどん」の提供許可のための連絡は、担当の方の御厚意もあり、イベント二日目である 11 日には間に合うように許可証を発行可能ということで、この日の昼にフェリーに乗り、札幌へ帰る教授に許可証の下書きを託して、羽幌港着港後に留萌保健所まで足を運んでいただき、滑り込みで申請をすることができた。三日目は逆境だらけの波乱の日だったが、いろいろなことを学べて、とても良い経験になった。

海鮮うどんの写真。
これも学生の力だけでは実現することができませんでした。
おらが島活性化会議の方々に感謝です！



腐敗した床の補修中です。
三日目にもなると疲労も蓄積してきましたが、
熱意と感謝の気持ちで乗り切りました。



事前訪問時には荒れ果てていた
空き店舗を、ここまできれい
にすることができました。



8時から動き出し、空き店舗の開店に向けて、最終準備に取り掛かった。嬉しいことに営業前から来てくださるお客様がいらっしゃったので、通常より少し早めに営業を開始した。慣れていない作業やイレギュラーなことに戸惑いながらも店舗営業へと取り組んだ。作成したチラシを見てこの交流会に参加して下さった方や観光客の方が『島民と話が出来て楽しかった。今後もぜひ続けて欲しい!』などの声を聞き、自分たちが目指している島民×観光客×学生という目標に少しは近づけたと思う。また、『頑張っってね』の声や開店祝いとして花などを頂き、改めてこのプロジェクトを実のあるものしなければという想いが強まった。

最終準備の最中。
営業当日は書籍班やおらが島活性化会議の方々も力を貸してくれました。



時々小雨に見舞われながらも、昨日の反省や改善点を踏まえ、全体で役割や流れを再確認し、二日目の開店を迎えた。今日は昨日に比べて島民の方、観光客の方と多くお話しをすることができ、もっとこういう風にした方がいいなどのアドバイス等を頂いた。営業は昨日よりスムーズに進行し、無事二日目の営業を終えることが出来た。初めは、島民の方の反応をものすごく気にしていたが、開店のお祝いの品を頂いたり、応援の言葉をかけて下さったり、本当に暖かい島なのだと再実感した。この幸せな環境は決して当たり前のことではなく、常に感謝の気持ちを持ち、もっとつながりを深めていくことが重要であると思った。

この活動を毎年やっていくというのはもちろんなのだが、ただやればよいという形になってはいけない。今回は空き店舗の営業が第1回目だったため、開店祝いを頂いたり、新聞に取り上げて下さったりなどと初めてであるから、どのようなことをやっているのかというもの珍しさに来られた方も少なくはないと思っている。この空き店舗活用を続けていくことは勿論大変であり重要なことであるが、今後続けて行くに向けて、どう変化させていくのか、新しいことはできないかを常に考えていく必要がある。そうでなければ、島民の方も又同じことをやっているから行かなくていいと言う風になってしまう。この活用を継続しつつも新たな活動も同時に考えていかなければならない。



空き店舗での飲食事業当日の様子です。
 様々な島民や観光客の方々と話を交わすことができました。
 今回の営業で事業の改善点は山ほど見りましたが、それでも多くの方々
 からご意見や賞賛のお言葉をいただくことができました。
 今後の営業の基盤を創るという目標は達成できたのではと考えております

本訪問 6 日目・最終日「挨拶回りと今後に向けた反省」

2 年生 安田眞奈

営業を終えた次の日ということで、12日は片付けメインに、13日はお世話になった方々への挨拶回りや、羽幌町役場へ挨拶をメインに活動した。12日の活動では、営業する際に借りた物資の返却や、売上金額や個数などの集計、計算など会計についての作業や、店舗の後片付けを行った。他の活動では、書籍班は聞き取り調査に向かったり、島民の方からお仕事をいただき手が空いているメンバーでお手伝いへ行ったり、各班、各メンバーで様々な活動に携わった。この日の夕方には売上金額や個数など営業内容についてのことや、店舗の後片付けを終えることができた。また夜には、営業日についてなどの反省会を行った。今回は営業のコンセプトとして島民の方と観光客の方、そして学生が交流できる場を作るという目的があり、今回の営業を振り返り、コンセプトを実現することができたと私は感じました。島民の方、そして観光客の方と交流して様々な意見をいただき次年度以降に反映させていきたい、反映させなければならないと感じた。そして営業日の売り上げについても学生メンバーの予想を越すものになり、大成功だと私たちは思った。反省会の中でおらが島活性化会議の坂本さんから『学生メンバーの顔つきも最初と比べても良くなった。』と言われたことが印象的であった。今回の営業を通じて、飲食店の知識、交流会を実現させるための知識、その他さまざまな知識を得ることができ、そして様々な立場の方と交流できたことでも貴重な経験になったと実感した。

13日の活動では、本調査の一週間滞在していた一軒家の清掃と羽幌町役場への挨拶がメインとなった1日であった。島で滞在していた一軒家の清掃を終えてから、島内の商店さんなど一週間でお世話になった方々へ挨拶周りに向かった。挨拶回りを終えてからは天売島を一周して、天売島の良さを再実感し、もっと天売島の良さを発信しなければならないと感じた。島での活動を終えてフェリーで島から羽幌まで移動し、羽幌町役場へ挨拶に向かった。役場では主に活動内容と今年度のメンバーの紹介を行いました。また営業した2日間の記事を北海道新聞の地域版で取り扱っていただいたことについても紹介し、今後の活動にどうつなげていくのかというお話も引率教員からしていただいた。その中では、今後の活動の先駆けとして天売島での営業が出来たことはとても大きなことであることを言われていて、今後の活動も頑張ろう、良い物にしていきたいと思った。

今回本訪問の一週間では営業を2日間行うためといった部分がメインとなって活動していたが、今後の目標としては、店舗をどう利用するのか、夏の期間だけでなくほかの期間でどうやって利用するのかといった大きな部分がある。これらは大きな部分で島の方や観光客、様々な面で考えなければならないため、来年度につなげていけるように気持ちを新たにした。

12日夜の打ち合わせにて。
厳しいことも多々指摘されましたが、達成感と充実感があふれていました。





天売島で私たちが滞在した一軒家の外観(屋内は非常に綺麗です)。
ここで毎晩現地の方々と打ち合わせをしていました。

後片付けの合間に
今後の活動などについて相談
をしていました。
今回の活動をどのように持続
可能にするかが課題です。



締めくくりとして集合写真を撮影しました
(後列右端がおらが島活性化会議の坂本学さん、
後列左端が地域おこし協力隊委員の平野健司さん、
前列右端が引率教員である「NPO 法人北海道エンブリッジ」の
浜中裕之さん

おわりに

この一連の活動は私たちが所属する北海学園大学の中でも、これまで考えられなかった取り組みであります。私たちの大学では現在まで地域問題をより深く理解するために、数多くの現地実習が行われてきていますが、従来のものに比べるとより長期的で学生に委ねられる範囲が圧倒的に広いことが特徴です。ただそのために、学生が抱える負担も拡大し、数多くの大きな壁にぶつかってきました。そうしたこともあって私たちの活動は前途多難にあふれていましたが、それでもこうして無事空き店舗活用の実現にこぎ着けることができました。これまでの活動を振り返って、この空き店舗活用プロジェクトには以下の様な成果があったと考えています。

まず今回受け入れてくださった天売島及びその島民の方々に対しては、島内での人々の交流を盛り上げるきっかけを生み出すことができたことです。今回は二日間と短い期間ではありましたが、島に放置されていた空き店舗を再活用し、島民の方々や観光客の方々が語らう機会を創り出すことができました。これにより、人口が減少している天売島に賑わいを取り戻すことができるという可能性を明示することができたと考えております。

そして学生側にとっては、地域問題の解決はどのように取り組んでいくか、それを再認識できる機会となったことです。現代社会では「地方創生」・「地域活性化」といった言葉が叫ばれていますが、私たち学生は今回の活動を通してそれに実際に取り組むことは容易ではないことを実感しました。地域、特に天売島に対するまなざしを改め、経験はもちろんのこと地域の人々に対する真摯な姿勢を次世代に引き継ぐ準備につなげることができたと考えております。

今回の空き店舗活用は非常に短い期間となってしまいました。しかし、今後も天売島に人々の交流の場をつくり、やがて島の活動を盛り上げることに繋げていくためには長期にわたって営業できる環境を整えていくことが課題となってきます。8月までの活動をもとに、今後はそういった空き店舗事業が天売島に定着するようにしていくことが、私たちの目標です。

また、書籍作成はこれからが重要であります。天売島の魅力発信や後世に残る資料の一つとなるよう、尽力したい所存です。

最後になりますが、このような活動を実現することができたのは、大学の先生方、天売島の方々、そしてご支援くださった皆様の並々ならぬ助けのお陰です。誠にありがとうございます。学生は世代交代を経てメンバーも代わっていきますが、変わらず真摯に取り組んで参ります。今後ともお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

2018年度 北海学園大学 地域インターンシップ
店舗班代表 経済学部地域経済学科 3年生
今野友輝
書籍班代表 経済学部経済学科 3年生
牧野睦

付録：空き店舗班の活動に関する記事(北海道新聞より)

2018年(平成30年)08月01日(水曜日) 北海道新聞 朝刊 全道遅版 経済 10ページ

北海学園大生 CFで資金集め…

【天売】人口3000人で過疎化が進む天売島(留萌管内羽幌町)を元気づけようと、北海学園大(札幌)の学生7人が島の空き店舗を活用して島民と観光客らの交流拠点をつくる。交流第1弾として10、11日に焼き肉イベントを開く。同地域経済学科(水野谷武志教授)は、2016年から島内の青年団体「天売島おらが島活性化会議」を受け皿にインターシップを実施。その恩返しとして、フェリーターミナル近くの観光売店だ

天売の空き店舗 交流拠点に

観光売店 再整備し活用

交流拡大のアイデアを練る。おらが島活性化会議専務理事の坂本学さん(49)は「学生たちの熱い気持ちが島民の心に届けば成功」と期待する。CFは1口3千円からで、



天売島の玄関口、フェリーターミナル近くの観光売店。札幌の大学生が空き店舗活用に動きだした

まで。金額に応じてイベント当日の食券などを送る。目標額は40万円。詳細はCF運営会社「アクトナウ」https://actnow.jp/project/tenri (長谷川賢)

(C) 北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。

天売の空き店舗活用 目標額達成

【天売】北海学園大(札幌)の学生グループが島内の空き店舗を活用して島民と観光客らの交流拠点をつくる目的で行ったインターネットで寄付を募るクラウドファンディング(CF)が6日で締め切られ、目標額の40万円を達成した。活動の第1弾として10、11の両日、改装した空き店舗でバーベ

北海学園大生 CFで資金集め

キュー交流イベントを開く。同大経済学部(札幌)の学生7人が天売港フリーターミナル近くの観光売店の二つの空き店舗を交流拠点として再整備する計画。7月4日に開始したCFは受け付けを終了した8月6日までに37人から延べ45口、47万6千円が寄せられた。この資金で空き店舗の水道設備

や床の補修などの改装を行い、冷蔵庫や焼き台などの備品も購入する。リーダーの地域経済学科3年今野友輝さん(20)は「たくさんの支援に感謝します。単発のイベントに終わらず、常設のコミュニティスペースづくりを目指します」と話している。交流イベントは両日とも午後3時から同9時まで。焼き鳥や野菜、飲み物などを販売する。問い合わせは同大の川岸さん ☎0800・6094・6676へ。(長谷川賢)



天売 空き店舗にぎわう

【天売】北海学園大札幌の学生グループが、羽幌町の天売港そばの空き店舗で10、11の両日、交流イベントを開いた。2日間で延べ100人以上が集まり、学生たちは「単発のイベントに終わらせず、継続的な取り組みにしたい」と意欲を燃やしている。(長谷川賢)

学生たちは2年前から、地域インターンシップで天売を訪れ、過疎が進む島の実情を知る一方、貴重な海鳥や豊かな海産物などの魅力も実感。交流や情報発信の拠点作りを思い立った。

天売港フェリーターミナル近くの空き店舗を活用し、多くの人でにぎわった空き店舗を活用した交流イベント

北海学園大生がバーベキュー 交流拠点化へ初イベント

空き店舗を活用しようと、インターネットを通じたクラウドファンディングで寄付を募り、約50万円の開設資金を集めた。

第1弾として、バーベキューイベントを開催。漁業者佐藤満夫さん(68)は「学生たちが頑張っているので応援したい」。ゲストハウス経営の宇佐美彰規さん(40)は「この空き店舗を休憩所に利用できれば」と期待する。観光で訪れた千歳市の会社員辻井一郎さん(53)は「地元の島民の人たちと話をする機会が持てて楽しかった」と喜んだ。

経済学科3年の牧野睦さん(21)は「どう継続していくかが一番の課題です」と指摘。学生たちは引き続き、天売の魅力を発信する冊子の作製に取り組み計画だ。学生を指導する同大の西村宣彦教授(地方財政論)は「現場で学ぶことは多い。島の人から話を聞き、自分たちに何ができるかを考えてほしい」と話す。

